

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
69	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b> Synergism of alcohol, diabetes, and viral hepatitis on the risk of hepatocellular carcinoma in blacks and whites in the U.S. 飲酒、ウイルス性肝炎と糖尿病の米国黒人、白人の肝細胞癌に対するリスクの相乗作用について	
<b>執筆者</b> Yuan JM, Govindarajan S, Arakawa K, Yu MC.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Cancer. 2004 Sep 1;101(5):1009-17.	
<b>キーワード</b> 肝細胞癌、ウイルス性肝炎、アルコール、飲酒、喫煙、糖尿病、肥満、症例対照研究	
<b>要旨</b>  (背景) 大量飲酒、ウイルス性肝炎と糖尿病は肝細胞癌のリスクである。これらの因子の相互作用に関する研究は少ない。  (方法) 住民対象の症例・対照研究を 1984～2002 の期間にロサンゼルスで行った。症例は 295 人の肝細胞癌症例、対照は年齢、性、人種が一致した 435 人。生活習慣は問診により得た。B 型および C 型肝炎ウイルス (HCV) の感染は血液検査で行った。  (結果) 肝細胞癌症例の 14 例は B 型 S 抗原が陽性であったが、対照例には一人もいなかった。HCV 抗体陽性は肝細胞癌に対して 125 のオッズ比を示し (95% 信頼区間[95% CI], 17-909)、B 型コア抗原に対する抗体陽性の肝細胞癌のオッズ比は 2.9 であった(95% CI, 1.7-5.0)。B 型、C 型肝炎ウイルス感染を調整しても大量飲酒と喫煙はそれぞれ独立に 2～3 倍の肝細胞癌に対するリスクとなった。糖尿病の病歴は非糖尿病に比べて肝細胞癌のオッズ比は 2.7 (95% CI, 1.6-4.3) であった。肝細胞癌に対する相乗作用は 大量飲酒と糖尿病の間 (オッズ比 = 4.2; 95% CI, 2.6-5.8)、大量飲酒とウイルス性肝炎の間 (オッズ比 = 5.5; 95% CI, 3.9-7.0)、および糖尿病とウイルス性肝炎の間 (オッズ比 = 4.8; 95% CI, 2.7-6.9) にあった。  (結論) 大量飲酒、ウイルス性肝炎と糖尿病はそれぞれ独立にかつ相乗性をもって肝細胞癌に関与することが米国黒人、白人に認められた。	